



下村 一郎 議員

## マイナス1.9mの新庁舎でいいのか

**質問**

市庁舎はマイナスの1.9メートル。伊勢湾台風の時より地盤沈下で1メートル以上も沈下している。防災上なら一番不適切な場所だが。

**市長**

この地で防災上も対応できると考えている。

**質問**

事業検証をするなら、浸水も含めて検証をしてはどうか。

**市長**

災害対応は、今度の建設の中で考えなければならぬ。

どのような対応をしたらいいか意見を聞きたい。

**質問**

合併特例債は、7割を国が見てくれるから有利な借金だというが、全国の自治体のうち37%が合併し、庁舎を中心に箱物建設をすすめている。国の借金は1人71万円にもなる。愛西市の借金も含めて市民の負担は重くなるのでは。

**市長**

合併特例債にしても、借金は借金であるという認識も持っている。

**質問**

「側溝が詰まって、掃除してくれと市に言ったら、自分でやってくれと言われた。年を取って、重いふたを上げてまでやれない。」と声があった。ある町内では、蓋が重いので、お金を出し合って業者に頼んでいる。

大量に土砂・ヘドロがたまっている側溝については、市が行ってはどうか。グレーチングは、希望があったら10枚に1枚程度入れることなどを提案する。見解は。

**経済建設部長**

埋まった側溝やグレーチングを入れることなどは、現地を確認し対応する。

**質問**

新庁舎を防災拠点にする問題について尋ねる。市長は選挙中の中日新聞などで「防災拠点として新庁舎建設は進める」と述べているがどうか。

**市長**

現在も防災の面で必要だと思っている。

**質問**

愛西市の災害で記憶があるのは「伊勢湾台風」「目比川(むくいがわ)の決壊」。

東日本大震災の結果、庁舎などの建設は、津波や浸水す

るおそれのある場所などを避けるのが一般的だ。

伊勢湾台風時は、市役所の近くに役場があり、浸水して使えず、佐屋町のくいな公民館の西に臨時役場をつくった。水害で船でしか行けない所に防災の拠点をつくっても、万一浸水した場合、職員、市民は来られない。見解は。

**市長**

今までさまざまな議会、有識者の見解の中で、この地で建てるのがいいと判断してもらっているので、この地で対応すべきと考える。

